

令和 2 年度 第 1 回学校関係者評価報告書

鳥取県立皆生養護学校
校長 岩 田 光 冬

評 価 日		令和 2 年 6 月 2 2 日 (月)	
委員	氏 名	資格・所属等	委員長
	小谷 幸久	元教頭	○
	伊澤 寿高	特定非営利活動法人 希望の星 副理事長	
	吉田 典穂 (欠席)	かいけ心正こども園園長	
	宮本 いずみ	ビジネスマナーインストラクター	
	後藤 幸子	P T A 会長	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等	
<p>1. 前年度の最終評価について 特になし</p> <p>2. 前年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について 特になし</p> <p>3. 今年度の評価計画について</p> <p>(1) 目標設定について 特になし</p> <p>(2) 目標達成のための取組について</p> <p>・分校の自己理解を深めるための「自分の取り扱い説明書」は自分を正しく理解し他者に伝えることや成長するための正しい目標を設定することにつながるよい取り組みだと思う。</p> <p>(3) 評価基準及び評価指標について 特になし</p> <p>4. 学校運営や予算に関する提言</p> <p>・先生方が元気であるからこそよい教育ができる。負荷をかけすぎると不調も出る。改革には労力がある。しかし、ニーズや社会の変化をキャッチし、転換を発達にしていく時期でもある。そのためには、「効率化」が必要になってくる。目的があれば、そこに辿り着く方策は必ずある。</p> <p>・重度の子どもたちには質にこだわって教育を行うことが大切。感情を育てようと思えば、本物を使って教育することが必要。</p> <p>・保護者は卒業後の生活、将来像に対して不安を感じている。将来に対するめどが立たないことや情報量の少なさが不安感を増す原因となっている。</p>		<p>今年度学校裁量予算計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人講師招聘事業 ・ 皆生教育力向上事業 ・ 現場実習受入促進事業 ・ 進路指導推進事業 ・ 職場開拓・フォローアップ事業 ・ 世界を広げよう わくわく体験 ・ 可能性無限大！皆生から全国へチャレンジプロジェクト (戦略事業) <p>・業務について効率化・簡素化の視点で点検・見直しを進めていく。人が集まることの必要性も見直し活字等別の手段への変更も検討する。</p> <p>・社会性や人間性の育成につながる感情の育成にむけて、授業等で本物に接する環境づくりを工夫していく。</p> <p>・保護者との話し合いの場を定期的に持ち、段階に応じて保護者の不安に対する具体的な情報を提供することに努めていく。</p>	